

# 令和5年度 学校評価書

大項目	中項目	グループ校の評価指標・学校説明	自己評価	学校関係者評価委員会から (小中一貫教育推進委員会等)	改善策 (来年度の目標設定、具体的な取組目標)		
【視点1】 学校の教育目標をグループ校で共有する	豊かな心と志をもち自ら切り拓く子の育成	① (独自) 将来の夢や目標をもち、その具現に向けて取り組んでいる児童生徒	A	○体育で転がってきたボールを返すと「ありがとうございます」とお礼が言える良さがある。 ○地域が学校に依頼して実現した「一人暮らし高齢者宅訪問」の取り組みが非常に良かった。来年度は現1年生に引き継ぎ、少しずつ拡大しながら継続的な活動にしていってほしい。	自分をみつめ生き方を学ぶキャリア教育について、小中3校で9年間を見通した全体計画を立てる。また、将来の夢や目標をもち、その具現のために、生徒が主体的に機会を設定する。(キャリアパスポートの見直しなど)		
		88%の生徒及び保護者が、「学校での様々な活動が将来の自分と結びつくことを見据えて、前向きに取り組むことができている」と回答している。ただ、「キャリア教育(職業や進路に関わる学習)を通して、自分の将来について考えを深めることができた」と回答した生徒が90%であったのに対して、保護者の回答では75%に留まった。前向きに学校生活に取り組む生徒の意欲を活かしつつ、より具体的な社会での自分の将来像を意識させ、深めていく指導が必要であると考え。					
		② (独自) 授業や家庭における学び方の基礎・基本を身につけている児童生徒				B	▲「GREETING WEEK」を小中3校で実施したが、正直まだまだ浸透力はない。学校の中でできても、地域の中ではできていないのが実情。地域の大人でも目を合わせないで通り過ぎる人がいる。
		AIドリルなどを活用し家庭学習の充実を目指した。「授業評価の項目を意識して、授業に前向きに取り組むことができた」では、生徒、保護者、教員が80%程度の生徒が前向きな回答をしていることから日常的に意識し取り組むことができている。しかし、家庭学習に関する項目では、生徒は70%程度ができていると答えているが、教員・保護者の評価はともに低い値になっていた。このことから、来年度は家庭学習の価値を再確認するとともに、やり方についてより丁寧な指導を行っていく必要がある。					
【視点2】 9年間の連続生、系統性を強化した教育課程を編成・実施する	発達段階に応じた学び方と学習習慣の育成	③ (独自) 小中のつながりや学び合いを意識して教育活動を行っている教職員	B	□12月の地域防災で、自治会と連携して中学生がさらに活躍できるしくみを作っていきたい。	学習の基礎・基本の力を伸ばすことで、教科に対する学習意欲を高められるようにする。また、ICT教育の充実と併せ、ドリルアプリの活用を進め、家庭学習の充実を図る。小中3校で互いの授業を参観し、話し合う機会を増やす。		
【視点3】 教職員の協働、児童生徒の交流	つながりと学び合いを深める児童・生徒間交流	小中一貫で取り組む活動として挨拶を取り上げ、意識向上を図った。時と場に応じて挨拶を返すことができたという割合は生徒は94%、教員55.6%、保護者54.1%であった。また、「3校合同GREETING WEEK」の期間内において、小学生や地域の方々に挨拶ができたという割合は、生徒60.6%、教員44.4%、保護者49.9%であった。このことより、挨拶に関して子どもと大人との意識の差が大きいことから、今後は、今一度挨拶の意味合いを考えさせる活動を取り入れ、地域との連携方法をより工夫した挨拶活動を行う必要がある。	B	□情報に左右されて私立中学に行ってしまう生徒がいるが、第1子の保護者にはまず籠上中を理解してもらうことが大事。小中3校で9年間を安心して通わせられるようにしていけると良い。	様々な学校教育活動について、学校HPや小中一貫教育日より、地域・保護者参観週間等を通して、情報を発信する機会を増やし、学校教育活動への理解と協力を依頼する。		
【視点4】 地域との連携	地域の教育資源を活用した教育の推進	④ (独自) 地域の素材や人材を活用したり、地域へ発信したりする教育活動を行っている教職員	A	□地域の歴史や文化を生かした取り組みができない。(水害、御祭土手、白鬚神社)	コロナ禍が明け、合唱発表会の復活などを試みた結果を踏まえ、来年度は、生徒が学習に専念できる環境を整え、職員に過度な負担がかからないよう業務を見直ししていく。		
学校環境	教職員の働き方改善	⑤ (独自) 会議を1時間以内とするなど業務の精選に努めている教職員	B	□地域の歴史を紐解き、地域の姿を探る学習を、中学生が核となり、小学生がサブ役となって、地域で子どもたちを育てていきたい。そのためにも、地域人材をリスト化し、小中3校で共通の「人材バンク」を整備していけると良い。	様々な教育活動で具体的に実践させていきたい。		
グループ校の軸となる取組・活動		グループ校の評価指標		自己評価			
自分をみつめ、生き方を学ぶキャリア教育		⑥ (独自) 人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒	B	「龍門祭や合唱発表会では、集団活動の大切さを感じ、なかまのためになることを考えて取り組むことができた」と答えた生徒の割合が62%、教職員の割合が67%と半数以上であったため、多くの生徒は人の役に立てたことに喜びを感じている。一方、保護者の割合は44%であった。生徒たちの自己肯定感を高められるよう支援するとともに、保護者、地域に生徒たちの頑張りを発信する機会を増やしていく必要がある。			

静岡市立小中一貫教育における特色ある教育活動

大項目	中項目	評価指標	自己評価	改善策 (来年度の目標設定、具体的な取組目標)	
【独自】 重点目標「自律と自立」の実現に向けた取組	自律した生徒の育成	⑦ (独自) 自ら中学校での目標が設定でき、中学校生活の価値や意義を見いだすことのできる生徒	B	○授業に向かう生徒の姿は、落ち着いている。 ○先生が生徒のところへ一段降りて、先生と生徒が一緒になって授業を作っている感じがよい。 ○安心して意見が言える雰囲気がある大変良い。授業で間違えた時こそ、後々記憶に残る。	「生活を整える」ために、籠上スタンダード(挨拶・言葉遣い・時間)を徹底させ、その中でも特に明るい挨拶を推進していく。また、朝の会・帰りの会、清掃、給食の時間を、落ち着いて取り組めるようにする。その上で、生徒一人ひとりに任せられた教科係や専門委員などの役割を、自分で考え、判断・決定し、行動できるように、教職員が「生徒の良き伴走者」となり、生徒を褒め、認めていきたい。
		「授業評価の項目を意識して授業に前向きに取り組むこと」や、「体育祭や合唱発表会では、集団活動の大切さを感じ、なかまのためになることを考えて取り組むこと」に対して、ほとんどの生徒が「できた」と回答している。ただ、「家庭学習を計画的に進めること」「小学生や地域の方々にあいさつをすること」に対する回答は、生徒、保護者ともに評価が低い結果が出た。自ら考え判断し、将来を切り拓いていくために必要な資質・能力である「計画性」「社会性」を育む場面を設定する必要があると考える。			
	自立した生徒の育成	⑧ (独自) 他人やものに頼ることなく自分の力でやりきることができる生徒	B	▲説明する時に、具体物があるとわかりやすい。 ▲黒板を、見やすくわかりやすく考えやすくするための「視覚にうったえるひと工夫」が必要。	
	【独自】 職員研修による教師の力量向上	「わかった・できた」が実感できる授業づくり	⑨ (独自) 生徒が「わかった・できた」を実感できる授業を構築できる教職員	B	▲5人の小集団だと輪に入れていない生徒が必ずいる。3〜4名ならお互いに意見交換できる。 ▲先生と数名の生徒で進めている授業は、他の生徒は黙って座っていても頭にも入っていない。 寝ている生徒は、最初からあきらめている。
【独自】 生徒のレジリエンスの向上	レジリエンスを向上させる学級経営と生徒指導	⑩ (独自) 学校生活の様々な場面で生徒に温かく寄り添うことで、生徒のレジリエンス(困難を乗り越えていくための心のしなやかさ)を醸成する教職員	B	▲授業の締めくくりに大切にしたい。(その時間に何を学んだのかを明確にして授業を終える)	「心を育む」ために、諸活動の中で、自分の大切さとともに他の人の大切さを認め合う活動を推進していく。生徒の困り感を的確に把握し、丁寧な対応を心がける。また、リーダー講習会など、リーダー育成を積極的に行っていく。

各学校の評価

学級の状況 (全学年学力・学習状況調査)	井宮小学校	井宮北小学校	籠上中学校	改善策 (来年度の目標設定、具体的な取組目標)
体力の状況 (新体力テスト、全国体力・運動能力、運動習慣調査)	井宮小学校	井宮北小学校	籠上中学校	○教材の中身に魅力があると生徒の興味・関心が高い。実験や体験活動、グループ活動、ALTとの英語でのトーク等、くいつきのいい「魅力的な授業づくり」を進めることで、学力の向上やコミュニケーションの伸長につなげてほしい。
	井宮北小学校	籠上中学校	籠上中学校	▲授業でクロムブックを使っている姿をあまり見かけない。一人1台用意されているので、ICT機器の活用を、学力の向上につなげてほしい。
	籠上中学校	籠上中学校	籠上中学校	□短いレポートを書ける力を身につけさせたい。(要点を端的にまとめたり、漢字を活用したり)
生徒指導の状況 (学校いじめ防止基本方針)	井宮小学校	井宮北小学校	籠上中学校	○ここ数年、7〜10月は熱中症対策のため、活動時間が制限され、運動量が著しく減っているのではないかと。保健体育の授業はもちろん、部活動においても、内容を工夫して、生徒の体力向上に寄与してほしい。
	井宮北小学校	籠上中学校	籠上中学校	□不登校や相談室登校の生徒が一定数いると聞いている。教室以外の選択肢が増えるように、様々な形や居場所を作ってあげられると良い。
	籠上中学校	籠上中学校	籠上中学校	改善策 (来年度の目標設定、具体的な取組目標) 職員が連携し、いじめの早期発見・対応を心がける。また、生徒に寄り添い、悩み事を相談しやすい環境を整える。

静岡市立小中一貫教育における共通となる教育活動 (全国調査等の活用)